令和６年度鶴岡市こども会議

報　　告　　書

令和６年９月　鶴岡市健康福祉部子育て推進課

目　　次

Ⅰ　こども会議の概要 …… 1
　1　目的 …… 1
　2　テーマ …… 1
　3　参加者 …… 1
　4　日程・内容 …… 2
　5　実施体制 …… 2

Ⅱ　こども委員の提案と市の施策への反映 …… 3
　1　こども委員が考える「自分の理想の居場所」 …… 3
　2　各委員の提案の背景に共通する考え方 …… 3
　3　こども委員の提案内容の政策への反映 …… 4

Ⅲ　こども会議の総括 …… 5
　1　こども会議に参加したこども達の評価 …… 5
　2　開催した市の評価 …… 5
　3　今回のこども会議の評価及び次回に向けた課題 …… 6
　4　今後の対応（予定） …… 7

〔別添１〕　令和６年度鶴岡市こども会議提案書

令和６年７月から８月に開催した「鶴岡市こども会議」について、その概要及び参加者からの提案内容、今後の施策への反映方針等について報告します。

Ⅰ　こども会議の概要

１　目的　こどもや若者の夢や希望が叶えられるまちづくりを目指すため、こどもや若者から直接意見を聞く機会とする。

２　テーマ　**「こども達が気軽に集うことができる、理想の居場所を考えよう」**

地域のつながりの希薄化や少子化の進展などにより、こどもが居場所を持つことが難しくなっている。こどもが安心して過ごすことができ、多様な体験や遊びを通して成長することができる居場所について、こども自ら考えてもらおうと、このテーマを設定した。

３　参加者　市内小・中学生８名

委員は市内在住の小学 5 年生から高校生までを対象に、6 月 3 日～6 月 28 日の期間で募集した。

期間中に応募があった小学 4 年生から中学 2 年生までの 8 名をこども委員として委嘱した。（小学 4 年生は対象外であったが、きょうだいとともに応募し、定員に余裕があったため参加を認めた。）

１日目のアイスブレイクで参加の動機を聞いたところ、「自分の意見で居場所を作りたい」、「小学生の居場所を考えたい」、「こども会議に参加して自分を変えたい」、「他の人の考えを聞きたい、交流したい」などがあげられた。

〔参加者名簿〕

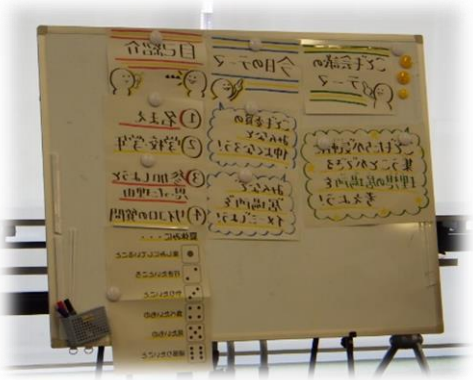
No	氏名	学年
1	佐藤　亮汰	中学２年
2	伊藤　泰良	中学１年
3	國領 あさひ	小学６年
4	石塚　結希	小学６年
5	新田　紹人	小学６年
6	松浦　環生	小学６年
7	小西　七青	小学６年
8	松浦　碧己	小学４年

４　**日程・内容**　日程は、参加者が参加しやすいよう夏休み期間とした。

また、参加者がそれぞれの意見を深めることができるよう、４日間の開催とし、そのうち１日は、理想の居場所をイメージしやすくするよう、実際に施設等を見学する日とした。

日　程	内　　容	
7月31日（水）	こども委員のみんなと仲良くなろう 理想の居場所をイメージしよう	委嘱状交付、アイスブレイク、ワーク
8月1日（木）	理想の居場所のイメージをみんなで考えよう	1日目のふりかえり、ワーク
8月7日（水）	ほかのまちの様子を見てみよう （視察）	東根市（まなびあテラス、タントクルセンター、あそびあランド）
8月8日（木）	鶴岡市へ理想の居場所を提案しよう	3日目の感想、提案書まとめ、提案

５　**実施体制**　事務局は子育て推進課が担当し、進行や意見の引き出し・整理を行う役割としてファシリテーター２名（市職員）を置いた。



Ⅱ　こども委員の提案と市の施策への反映

１　こども委員が考える「自分の理想の居場所」

参加者どうしの意見交換や視察の後、こども会議参加者（こども委員）はそれぞれが考える自分の理想の居場所をまとめ、市に提案した。

理想の居場所としてあげられたのは、駅・駅前、こどもセンター、図書館、本屋、遊戯施設、野球場、フリースペース、家電量販店であり、それぞれの興味や関心があること、普段の生活でこうだったらいいなと考えていることなどを踏まえて、自分が理想とする居場所の特徴やイメージなどを文章や絵で表現している。

２　各委員の提案の背景に共通する考え方

ワークの中での意見交換や市外施設の視察を通じて、理想とする居場所についてこども委員には概ね共通する考え方があり、その考え方がそれぞれの提案に反映されている。

〔共通する考え方（主なもの）〕

機能
- いろいろな人と交流ができる場所
- １か所でいろいろな体験ができる（機能がある）場所
- 大人もこどもも利用でき、楽しめる場所
- 小さいこどもだけでなく、高学年や中学生・高校生も楽しめる場所
- 既存の施設は大人の視点で作られている

立地
- 身近にあって気軽に行ける場所
- 遠くてもバスなどを使ってこどもだけで行ける場所
- こどもだけで移動できる手段がほしい

また、提案書には出てこないが、ワークで出た意見の中には、既存の施設や公園について、今後の市の施策に反映すべきものも多くあった。

〔ワークで出た意見（一部）〕

- 屋内の遊び場で遊んだ後など休憩できる場所が必要
- 公園に日影が欲しい
  〔参考〕市内であずまやや日除けがある公園は 186 か所中 64 か所(91 棟)。
- 利用料金は安く（または無料）
  〔参考〕児童館や子育て支援センター、公園などは無料で利用できるが、民間施設であるキッズドームソライやこがたランド、市体育施設などは有料。（こども１人の利用料金：ソライ 0 円～1,500 円、こがたランド 200 円、小真木原体育館多目的ホール 60 円）

・公園の水道やトイレは清潔さが大事

〔参考〕市内でトレイがある公園は 186 か所中 123 か所（136 棟）。
清掃は公園によって違い、毎日から週２～３回実施。

・公園や屋外施設の草刈りはきちんとして欲しい

〔参考〕市内公園の草刈りは町内会等に委託し、年２～３回程度実施。

・フリーWi-Fi の整備

３　こども委員の提案内容の政策への反映

市では、屋内・屋外のこどもの遊び場について整備方針の検討を行っており、こども委員の提案には、遊び場整備の参考となる意見が多くあった。

例えば、いろいろな人と交流ができる、身近で気軽に行ける場所にある、高学年や中高生も遊べる、無料で利用できるなどの意見が多く、整備方針の策定にあたっては、こうした当事者の視点を取り入れながら検討を進めていく。

また、遊び場整備方針の庁内検討会議において、こどもの遊びや遊び場環境についてご指導をいただいた、東洋大学の仲綾子教授など専門家の意見を伺いながら、こどもも大人も誰もが気軽に遊ぶことができる遊び場整備を目指す。

一方で、今回のこども会議には障害のあるこどもの居場所を考えたいと思って参加したという委員もおり、提案書にはその記載はなかったものの、障害の有無に関わらず、すべてのこどもが気軽に利用できる居場所が求められている。

このことから、遊び場整備にあたっては、インクルーシブの視点も踏まえ、障害のある当事者も巻き込みながら整備を進めていく。

そのほか、新図書館整備構想や駅前活性化策、体育施設の管理などにおいて、それぞれの提案について担当部署が対応を検討し、市の施策に反映していく。

Ⅲ　こども会議の総括

１　こども会議に参加したこども達の評価

最終日に、全日程を終えてこども会議の感想を聞いたところ、学年や学校の枠を越えて交流できたことや、みんなで意見を出し合って考えたこと、自分の意見を聞いてもらえたことなどに対して、良かった、うれしかったという声が多く、参加者からは好評だった。個人からの意見は以下のとおり。

・いろいろな人と交流できて良かった。
・友達ができて良かった。
・最初は不安、緊張していたが、みんなと仲良くなれ、交流しながら楽しく過ごすことができた。
・理想の居場所をみんなで考えることができ良かった
・自分で計画を作ることは得意ではなかったが、みんなと一緒に考えたり、体験をすることでアイデアを出すことができた。
・自分の考えに対し、ほかの人から意見やアイデアをもらえて良かった
・自分が考えた理想の居場所をまとめることができた。

２　開催した市の評価

こども会議では、こども達の発想力の豊かさや、大人が想像する以上にしっかりと自分の意見を持ち、発言できることがわかった。また、４日間の活動を通じて、他者の意見を聞いたり、自分の考えをまとめたりする中で、こども達の考え方の変化や成長する姿が垣間見られた。

提案書では、それぞれの理想とする居場所について、理由や特徴が丁寧に示されており、遊び場や図書館整備をはじめとする市の施策に参考となる貴重な意見を多くもらうことができた。スタッフの意見は以下のとおり。

〔こども達の姿〕
・こどももしっかりと自分の考えを持って意見を言うことができる。
・参加者の吸収力や対応力が高く、難しいと思っていた作業もこどもだけで対応できたことに驚いた。

・こども達は普段の生活の中でよく見ている、よく聞いている、よく考えていると感じた。それだけに、こども達はいろいろなこどもや大人と関わってほしい。
・こども達からは遊び場だけでなく様々な提案があり、こどもの意見の多様性を感じた。
・視察の際に参加者どうしや地元のこどもと遊んでいる姿を見て、こどもたちが交流できる場所を作ることが大切と思った。
・いろいろな人との交流や、いろいろな人が集まって交流できる場を求める声が多く、人が集まる場所を創ることで人と人をつなぐという視点があった。
・個人での提案書であったが、その過程で、他の委員の意見や視察した場所の良さを取り入れたものが多かった。

〔こども会議の進め方〕

・自分の考えを表現することが苦手な場合もあり、こどもから意見を聞く場合は対話が重要と感じた。
・参加者の年齢も学校もバラバラだったので、どこに重点を置くか、プログラム内容を検討することが難しかった。
・３日目に視察を入れたことでイメージを膨らませることができ、実際に見たり聞いたり体験したりすることが考える力に繋がっていると感じた。
・企画・設計がしっかりしていたのでスムーズに進めることができた。

３　今回のこども会議の評価及び次回に向けた課題

本市において初めてのこども会議開催であったため、対象年齢の決定や募集方法、テーマ設定、進め方など全てにおいて、企画段階から手探りの状態で準備を進めてきた。その一方で、初めてであるがゆえに、前例に捉われず、職員の自由な発想で企画・運営することができたことは良かった。

なお、実際に運営を進める中では課題も見つかり、次回開催する際は改善しながら進めていく。

①幅広い年齢層の参加者確保

できるだけ幅広い年代の意見を聞くために、参加対象を小学５年生から高校生年代までとし、各学校等を通じたチラシ配布などにより参加者を募集したが、結

果として高校生の応募は無かった。高校生に参加してもらうための周知・募集の方法が課題である。

また、参加者の年齢の幅が広いと意見の引き出し方も変わってくることや、小学生は集中力などの面で長い時間の設定は難しいため、高校生は別メニューにするなど、会議の進め方について工夫が必要と考える。

②参加（応募）人数の増加

定員を１０名として募集したが、応募は８名にとどまった。できるだけ多く参加してもらうため、周知方法の改善のほか、個別に声掛けするかどうか検討する必要がある。

また、幅広く意見を聞くために、障害のあるこどもや外国にルーツのあるこどもなどに個別に声を掛けてもよかったのではないか。

③ファシリテーターの選定

今回は市職員２名がファシリテーターを務めたが、より年齢の近い若手職員や大学生も加えると、参加者も意見を出しやすく、若手職員にも刺激になるのではないか。

４　今後の対応（予定）

提案書の内容は今後の市の施策に反映するほか、引き続きこども委員から意見を聞く機会を設け、こどもの視点を取り入れた市営運営を進めていく。

①鶴岡市こどもプランへの意見聴取

今年度策定の「鶴岡市こどもプラン」について、こども委員から意見をもらう。

②遊び場整備方針へ意見反映

現在、屋内・屋外両面からの遊び場整備方針をまとめており、こども委員の提案を方針に反映し、策定後にこども委員への報告会を開催する。

③来年度以降の実施について

こどもや若者から意見を聞き、市の施策に反映する機会として、来年度以降もテーマを変えながら、継続してこども会議を開催する。概ね今回と同程度での実施を考えているが、反省や課題を踏まえて詳細を検討する。